

2021年1月14日

上智大学グリーンケア研究所
所長 島蘭 進 殿

医療法人ガラシア会ガラシア病院
院長 伊藤 則幸



2019年度上智大学グリーンケア人材養成講座（大阪）の第三者評価について

標記のことについて、下記のとおり評価結果をご報告いたします。

記

1. 総評

上智大学は”Men and Women for Others, with Others - 他者のために、他者とともに生きる者“の養成を、その教育精神の根幹に置いている。グリーンケア人材養成講座、グリーンケア人材養成課程及び資格認定課程は、この上智大学の教育精神に沿った人材養成を行っており、評価できる。

2. 理念・目的・教育目標

グリーンケア人材養成講座が養成する「人材像」、課程開設の「目的」を明示し、また、「修了認定の方針」、「教育課程編成・実施の方針」及び「受講生受け入れの方針」の3つのポリシーを大学のホームページ及び受講生の出願要項等で公表していることは、同講座・課程受講希望者に対する情報開示として評価できる。

3. 教育内容・方法・成果

(1) カリキュラム（教育課程の編成）

グリーンケア人材養成講座の特色は、まず、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師」の養成プログラムとして、同学会が定める「教育領域」に準拠していること、そして、グリーンケア・スピリチュアルケアにおいて援助希求者の死生観や宗教観を理解することの重要性に鑑み、「キリスト教人間学」、「宗教学」及び「死生学」などの科目を開講していることである。

日本スピリチュアルケア学会が定める「教育領域」との対比では、同学会の規定を上回る開講科目数・時間数を開講しており、評価できる。

また、講義科目は、4年制大学の高学年生のための専門科目の水準になると認められ、一方、演習・実習科目については、ケアに長年にわたって従事する実務家教員が主体であり、教育の質的にも評価できる。

なお、受講生のほぼ全員が社会人であることから、授業の実施を水曜日の夜と隔週土曜日に開講していることは、職業人への学びの機会を提供しており、評価できる。

人材養成課程（2年制）においては、2017年度に全面改訂された新しいカリキュラムがスタートし、2019年度末には修了生35名全員が総合審査に合格し、大学独自の資格である「臨床傾聴士」を付与され、また、資格認定課程（1年制）においては、修了生12名全員が総合審査に合格し、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師（認定）」への推薦資格が付与されたことは評価できる。

2) 教育体制

同講座の開設主体であるグリーンケア研究所は、正所員14名による研究所会議を開催し、カリキュラム、担当教員、入試選抜、修了判定等、教育課程の運営について審議、決定しており、人材養成

課程および資格認定課程の教育体制として評価できる。

なお、演習・実習科目を担当する教員が長い実務経験を有する者が限られることから、一部に担当教員の負荷が高くなっていると認められ、担当教員の増員が望まれる。また、演習科目において担当教員をサポートする演習補助員（チューター）の適切な確保に留意すべきである。

(3) 事務運営体制

同講座は、常勤の事務スタッフ1名と研究補助員1名に加え、同課程の教育指導を支援する研究員1名による事務運営体制であり、同課程を含め、グリーンケア人材養成講座全体の事務運営体制として適切な体制であると評価できる。

4. 受講生の受入れ

2019年度の出願状況及び入学状況は、人材養成課程が定員36名に対して出願者32名、合格者32名、入学者32名であったのに対して、資格認定課程は定員12名に対して出願者20名、合格者14名、入学者14名であった。両課程ともに、定員に対して適正な受講生数としており、受講生数の管理は適正であると言えるが、人材養成課程については、定員を下回る出願者数であった。出願者の1/3程度は、医療機関、社会福祉施設、宗教施設等関連する機関からの出願であったということからも、継続的にこれらの機関に対してチラシや募集要項を送付するとともに、広く広報活動を展開させていく必要性があると思われる。

5. 改善に向けての取り組み

まず、本評価を実施するに当たっては、毎学期末に実施している受講生アンケート調査の回答と、2020年1月に実施した前年度修了生へのアンケート調査の結果を参照した。

グリーンケア研究所は、上述の通り定期的に受講生や修了生へのアンケート調査を実施し、カリキュラムや授業内容、教室環境等々について、受講生や修了生の意見や要望を把握するようにしている。かかる意見・要望を反映することで、2014年に改訂したグリーンケア人材養成講座の課程やカリキュラムを、再度2017年度に全面的に改訂したところであり、受講生や修了生の意見・要望を積極的に取り入れて、改善に取り組んでいるところは大いに評価できる。

なお、現在のグリーンケア人材養成課程は、2017年度よりカリキュラムを全面的に改訂したところであり、本評価期間は、改訂した課程・カリキュラムの3年目にあたり、2019年度末には35名の修了生を輩出したところである。

今後は改訂後3年間の実績を踏まえて、カリキュラム改訂の適切性および課題について十分に検証し、さらなる改善に向けて取り組む必要がある。

6. 改善すべき事項

受講生へのアンケート結果を見ると、全体として満足度は高い結果が出ているが、「この授業に対する技術的な点で、もう少し工夫してほしいと思うものはありますか。」という設問に対しては、ほとんどの授業で「話し方の速さ・明瞭さ」「説明のわかりやすさ」および「配布資料全般」に対する不満が少なからず見られるため、今後は教員研修（FD）をとおして、授業方法や資料作成の改善を進めていく必要があるだろう。

グリーンケア人材養成講座の出願者数・合格者数・入学者数および修了者数等といった基本情報は、本講座に入りたいと思っている方々にとってとても知りたい情報だと思われるので、大学のホームページ等での公開を検討してはどうだろうか。

以上